

千原池周辺の史跡 糸蒲ノロの墓など

はいさーい！ きじむんやいびーん。

今月は、琉大千原キャンパスの真ん中にある千原池の周辺史跡を案内するよ！

千原池には、琉球の古い時代のノロの墓が水没しています。津覇の古代マキョだった糸蒲のノロの墓。琉球がまだ、村単位ではなくて、マキョと呼ばれる一族単位で生活していた頃の話。

琉大がある場所は、昔は津覇集落（今は中城村津覇）の人たちが住んでいて、その一族には神役の女性がいます。あるとき隣の棚原一門と戦争になり、津覇の一族は千原池附近で全滅。津覇のノロも、ナービグムイという淵（下の写真）で水死。

ナービグムイは、鍋底の形をした淵だったそうです。ノロは近くに葬られてシージマタヌ御嶽という拜所になりました。

『琉球国由来記』によれば、1713年にはすでに拜所として棚原が拜んでいます。琉大ができるときに墓は千原池に水没し、拜所のみ水面近くに移動しています（右上の写真）。ここは、今でも年に数回、棚原や津覇が拜んでいます。

シージマタヌ御嶽



ナービグムイ



千原池は、琉大が移転してきた1977年に作った人工池で、農学部農場用の用水ダム。以前は普通の川で、今とはかなり形が違います。ナービグムイのほかにその下流にウフタチグムイという淵もありました。広さ30坪(約99㎡)、深さ7尋(約13m)でしたが、今は水没しています。

シージマタヌウカーという井戸もありましたが、今でははっきりとした遺構は確認できません。

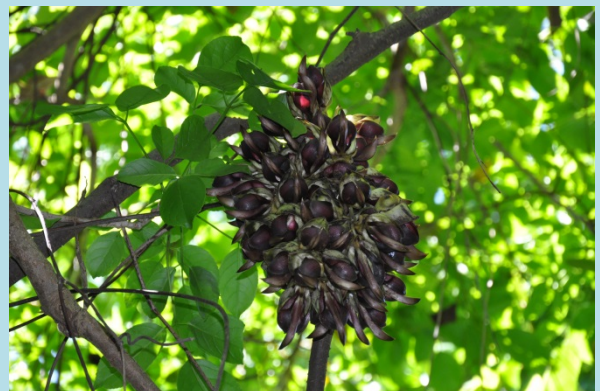
琉大附近を流れる川は、ほかに、ムンヌ川とオフチュー川があります。

千原池の北側の水面近くには、イルカンダというマメ科の植物（右の写真）が群落を作っていて、開花期の春には、数百もの赤褐色の南国情緒ある巨大な花が見事に咲きます。

周辺にはまだまだ琉球王府時代の遺跡があります。

それはまた次回に御案内します！

(AS生)



イルカンダ

参考文献

西原町史編纂委員会編『西原町史』第四巻資料編三 西原の民俗 平成元年3月

西原町史編纂委員会編『西原町史』第五巻資料編四 西原の考古 平成8年3月

仲間勇栄・仲地宗俊・菊池香「琉球大学千原キャンパスにおける森と人々の暮らしに関するフィールド調査」『琉球大学農学部学術報告49号』平成14年12月

沖縄県宜野湾市教育委員会文化課編集・発行『ぎのわんの地名 内陸部編』平成24年3月

琉球大学附属図書館 沖縄資料担当 平成26年7月1日発行